

# 糸魚川君と私

小樽商大初代学長 大野純一



糸魚川祐三郎先生

松商学園短大学長。十一月十日午前十時半心筋こうそくのため長野県松本市相沢病院で死去。七十才。  
 自宅は松本市清水二丁目三の一、裏主は長男、直祐氏。  
 『手塚寿郎先生の追憶』に寄せられた原稿が絶筆となる。  
 先生の生涯は小樽高商時代(大正十一年四月二十一日講師、大正十二年十二月十七日教授、昭和十七年七月十日文部省転出。二〇年間の母校勤務)が一番ながく、横浜高商教授、和歌山大学長、松商学園長など歴任。今秋の生存者叙勲で勲二等瑞宝章を受けていた。

昭和四十二年十一月十日松本から拙宅に電話があつて同日十時糸魚川君が心筋梗塞で急死した旨を伝えて来た。私はその瞬間「しまった残念だ、もう一度会いたかった」と地団駄をふむ気持になつた。  
 糸魚川君は高商時代は一年私の先輩であつたが、彼は卒業後一年台湾

銀行へ入つたので、東京高商専攻部で一緒にになり、一緒に小樽高商に赴任し、それ以来四十数年の親しい友であつた。  
 私が五月末東京に移つて来てから二度電話を貰つた。「東京か松本かで逢おうやないか、いつでも都合のいい日、都会のいい場所を指定して呉れ」と云うのであつた。私は病後のからだで初めての東京の猛暑にあつてまいってしまひ六月から九月一杯殆んど寝たり起きたりの日を暮らしていたので「もうしばらく延期して十月か十一月かに拙宅に泊りがけで来て欲しい」と約束してあつたのだ。十一月に入つてから私も健康をとりもどしたので十一月の六、七日頃打合せの電話をしようと考えていた。それなのに突然の電話で、もう二度と再び逢えないことになつたのだ。私は残念で残念でたまらない。この気持は今も抜けきれないでいる。

彼はクリスチャンらしくない、クリスチャンであり、学校の新米講師時代には学生と共にY・M・C・Aの下宿に住んでいた。その頃の学生は西野嘉一郎君、田中修吾君等であつた。その中にクリスチャンならざる私ももぐり込ませて貰つた。それであの頃のクリスチャン学生諸君とは特に親しくなつて今でも逢えば当時の話に花が咲くのである。こんな頃からの思い出はいくら書いてもつきない程であるが、その中で私の胸にいつまでも強く刻みこまれていたもの一つだけ述べて四十数年の変らざる友情に対する感謝の意を表することしよう。  
 それは昭和二十一年二月頃のことであつた。私が召集解除になつて六ヶ月もしないうちである。文部次官から何月何日何時に文部省に出頭され度しと云う電報を受けとつた。しかし、あいに私は風邪を引いて熱が出ており、かつ当時の交通事情は何日か、つて切符を手に入れ、汽車は窓から出入してはじめて乗り降りするあの地獄のような有様であつたので、私は東京行きを断る積りで飯川文三さんに相談した。  
 飯川さんは栗林汽船に交渉して日本に貸与されているアメリカの戦艦船に便乗するよう頼んで呉れたので熱をおかして室蘭まで出かけ、そこから芝浦まで大きな食糧入りのリュックサックを横において二晩夜をあかし漸く目的地についた。当時糸魚川君は横浜高商の校長であつた。私はリュックをかついて横浜磯子の糸魚川君の官舎を訪れ、事情を話して泊めて貰うことにした。  
 糸魚川君は「そんな電報が行つたのなら多分大臣と面接することになるだろう。その髪と頭髪では失礼だから散髪に行つてこい」と云うのである。私は風邪のため髪も頭髪もボウボウとしていたのであつた。私は彼の言に従つて街へ行つたが、その日は折悪しく横浜中の床屋の定休日であつた。私は帰つて来て今日は駄目だから髪だけそつて行くことにした、と云つた。出頭日は明日に迫つ

ていたのであつた。すると彼は「よしそれで僕が頭をかつてやる」と云つて二階の縁側の日当りのよいところで、首に風呂敷を当て、チョッキン、チョッキンとかつて、速くから見たり、近くから見たりして「うん、これで良い」と自分でうなずいた。多分虎がりであつたかも知れないが私にとってはどんな形になろうと彼の温い心に心中で涙の出る程有り難い思いがした。  
 果して翌日、文部省で安倍文部大臣にお逢いすることになり、校長の命を受けたのであつた。私は糸魚川君に頭をかつて貰つた温い友情は死ぬまで忘れることは出来ない。これは彼の温かい友情の一つの支けをとおつて紹介したのであるが、縁丘で結ばれた彼と私の心のつながりは互にこの世を去つても切れるものではないと固く固く信じている。

余談—その後糸魚川君に逢つたら笑い乍ら次ぎのような話をして呉れた。その後、間もなく長男の直輔君が学校へ行つたところ友達が裏面目な顔をして「君のおとうさん床屋さんだったの？」と聞かれた相である。二階の散髪を友達が下から見たのである。勅任官を散髪屋と間違わせて申しわけない話である。  
 その直輔君も今は阪大の先生で猿の心理学とかを研究し一年の中半分位は山の中の猿を観察している。そして数年前には渡米して立派な業績を世に出している相である。  
 彼はお父様が人間に示したような温かい心を猿にまで拡げて立派な大学者になることであらう。

## 読者の声

### 小樽商大旧本館 正面建造物 移設存置運動について

過日、同期の鎌谷勤君と札幌市郊外下野幌団地の室谷賢治郎先生新邸に、新居拜見がてら先生を訪問、いろいろ欲談したが、談たまたま母校本館の保存問題となり、首題のような運動を提唱すべし、という結論になつた次第である。

一、これまでに縁丘誌などに、たびたび、旧校舎を借し移設存置すべし、という声があつた。  
 一、新校舎完成の暁には、旧校舎はこれを破壊し、ただの廃材とするだけという。まことに惜しむべきことである。  
 一、昭和十一年秋、天皇はこのバルコニーから、校庭における学生の野試合を親しく天覧あらせられた、由緒ある建物である。  
 一、明治建築の官立旧制高専の建物は戦災などにより消滅、現在は小樽以外にはない。故に「明治建築の高専校の建物を見たいならば、小樽へ来い」というくらいにしたい。  
 一、せめて、正面玄関、バルコニー、塔屋、らせん階段、二階会議室などの最少限を残し、二階会議室には学校の歴史的资料を展示する資料館とすべし。

### 愛知県犬山市の明治村に移設してはどうか、との声もあつた

一、愛知県犬山市の明治村に移設してはどうか、との声もあつた。そうであるが、大変な費用もかかることでもあり、また同村には既に金沢の旧第四高校の講堂、札幌郵便局があり、学内に存置するのがよろしい。故に右の移設は学園内にする。

### これが実現の方法

一、縁丘誌を通じてキャンペーンしていただく。  
 一、縁丘会本部にこの問題を取りあげていただく。  
 一、縁丘会理事長に仮称「小樽商大旧本館存置期成会」会長になつていただく。  
 一、現校舎建築請負業者に移設の見積りをしてもらう。  
 一、縁丘会各地支部を通じて寄附を募る。  
 一、業者に格安に奉仕していただく。

### 尋ね人と「縁丘」

かねて「縁丘」誌上で尋ね人して

おりました同期卒業生具島又喜君の消息を「縁丘」誌上で見たからといって我々大正十二年会当番幹事田島正太郎君が本籍役場に照会して分かつたからとわざわざ知らせて呉れました。それによると昭和三十五年六月二四日東京・浅草田中町で逝去されたそうがっかりしましたが、でも消息が判明しましたので喜んで居ります。早速山梨大学の井上政次名誉教授にも知らせてやります。

それにしても御誌「縁丘」は実によく効きます。実は方に一つも希望は持たなかつたのですが、溺れる者はワラをもつかむ気持でお願ひしたのですが、こうもよく効くとは思いませんでした。感謝あるのみです。(大一二 菅野祐治)

### 手塚寿郎先生の追憶を手にして

今回の「手塚寿郎先生の追憶」の編集は今日までにおける庄巻の最たるものであらうと私は信ずる。他に自分としてこの本職をもちながら「よくもここまで」との感懐は豈私のみならんや。その苦心、苦勞の跡は全頁を通じてあふれでている感じがします。(大一一 四谷宗義)

早速拜見しまして、その出来ばえのすばらしさに感謝の気持で一杯になりました。佐々木周一理事長の序にある通りのなみなならぬご苦勞に改めて重ねて感謝の意を表します。今頃この値段でこんな立派な本になるなど一寸考えられない位です。(大一一 西川正己)

### 恩師近況

戦歿学生慰霊のための平和記念塔の建設発起を喜ぶ 加茂儀一先生

十月五日の椿山荘へ出席のあと、翌日関西に飛び七、八日に大阪府知事、同市長中馬氏の肝入りで中島公会堂で世界連邦大阪大会を開き、千名以上の会員が集り、盛会でした。八日夕、市長の好意で大阪湾を一周し、施設の見学をさせていただきました。明日(十一日)からまた茨城、千葉、石川へとまわります。

万國博では世界は一つの考えから大いに宣伝するつもりで、十一月は東京朝日新聞の主催で世界連邦の講演会を開きます。益々悪化していくこの世界情勢の中で、せめて人類のヒューマニズムだけは守りぬきたいと念願してすべてを犠牲にして戦つております。

私の主唱していた戦没学生の慰霊のための平和記念塔の建設が今度発起された由、私の願望の一つがここでもかなえられていくのを喜んでおります。  
 近くまたパリへ飛ぶことになるかもしれませんが、これもみな手弁当です。自分のためになしに走り廻っているとは案外疲れないものです。

# 嶺 丘

0 / 2  
29  
966

1967 No. 58

奇数月発行



マツキンノン先生特集号(II)



馬  
秦 森 康 屯

小 樽 商 大  
同 窓 会 誌

SINCE 1876



結論が出ました—  
「★サッポロビールは  
最初のうまさを持続する」

●雑味・雑臭がないから うまさを持続

ビールの味の総仕上げは濾過の工程が受けもちます。サッポロビールは独自の方法で雑味・雑臭を完全に除去、味の純度がずば抜けて高いのです。

何杯飲んでも最初のうまさ味わえる——サッポロビールだけの秘訣です。